

## (1) 確かな学力

### 【結果】

「1. 基礎学力が身についている」については、教職員は「よくできている」「大体できている」の合計で 100 % の数字を示しています。教職員の意識では基礎学力がついていると判断しているのですが、生徒自身が授業の中で「わかる」と実感している総数は、全体で約 72 % であり教師の認識との差があります。

「2. 授業で満足感や達成感を持っている」についても同様の結果が現れています。教職員の約 83 % が「満足感や達成感を味わっている」と判断しているが、生徒全体では約 69 % にとどまっています。ここにも教師と生徒の認識には差が見受けられます。

「3. 先生は学習の効果を上げるために工夫・努力している」については、教職員の約 86 % が「工夫・改善に努力している」と判断し、授業を受ける側の生徒全体では約 82 % が肯定的に答えています。

「4. 家庭学習の習慣化」については学年が上がるごとに、肯定的な回答が増加する傾向を示しています。

本校が取り組んでいる「朝の読書」に関連する項目の「5. 読書の習慣が身についている」については学年によって差が見受けられるものの、生徒全体では昨年度の結果よりも 7 ポイント高く約 65 % が肯定的に答えていました。

### 【考察】

「1. 基礎学力が身についている」と「2. 授業で満足感や達成感を持っている」の結果をみると、どちらも生徒と教職員の認識の開きが明確に見られます。この傾向は昨年でも同様でした。このことから生徒と教職員の認識の開きを真摯に受け止め、「わかる=できた」と感じられる生徒の立場に立った「確かな学力」を高める授業展開を目指す必要を感じます。授業のめあてと振り返りをしっかりと行なうことが求められます。

「4. 家庭学習の習慣化」については学年が上がるにしたがい家庭学習の習慣が定着しています。このことが、「1. 基礎学力が身についている」と「2. 授業で満足感や達成感を持っている」での学年ごとの回答傾向には影響があるようにも見受けられます。家庭学習の習慣化は、確かな学力を身につけるために必要な条件といえます。そのためにも週末課題を本校では生徒に課しています。

今後も授業の研究を推し進めて、「1. 基礎学力が身についている」と「2. 授業で満足感や達成感を持っている」の回答に反映できるように生徒が本当に理解できるような授業を展開し、それを定着させる家庭学習の習慣を身につけさせ、生徒自身が学習の主体者として取り組む姿勢が上昇していくような指導していきます。

最後に、「5. 読書の習慣が身についている」という生徒の数は増加していますが、生徒の読書に対する姿勢はまだまだ主体的に読書を親しむようには感じられません。学校で行う「朝読書」のように決められた時間の読書から、自らが「本を読むことが楽しい」と感じられるように成長してほしいと期待しています。

## (2) 豊かな心・健やかな体

### 【結果】

「1. 進んで挨拶をしている」については生徒全体で92%を超える生徒が「よく出来ている・大体出来ている」と答えています。それに反して教職員は約39%が肯定的に答えていたりとあります。

「2. きちんとした言葉遣いをしている」についても上記の「挨拶」と同じ結果が出ており、生徒全体で約86%の生徒は「きちんとした言葉を使っている」と思っています。しかし、教職員から見ると「きちんとした言葉を使っている」と判断したものは約55%にすぎません。

「3. 学校の決まりや約束事を守っている」という項目については生徒・保護者の回答が同様に約90%を超えて「よく出来ている」「大体出来ている」と肯定的に答えていたり。しかし、教職員の肯定的な回答は約80%で、わずかながら認識の差が見受けられます。

「4. 他人を思いやり、親切にしている」については90%以上の生徒が「よく出来ている」「大体出来ている」と回答しています。

「5. 楽しく学校に通っている」では1年生で約93%、2年生で約86%、3年生で約91%が「楽しく通っている」と答えています。保護者の回答も約93%が肯定的に受けとめています。

「6. 将来の夢や希望について考えますか」については、保護者の肯定的な意見も約74%と高く、生徒全体の回答でも約79%の生徒は「考えている」と答えていたり。

### 【考察】

「1. 進んで挨拶をしている」と「2. きちんとした言葉遣いをしている」については、昨年と同様、生徒と教職員の意識に大きな開きがあり、生徒の考えている基準が低いといえます。ちなみに保護者の見方も教職員のとらえ方に近いようです。学校では生徒会の挨拶運動のみならず、日常の中で教職員自らが「進んで挨拶」を実践し、また正しい言葉遣いの重要性を教えていくことが生徒の豊かな人間性や社会性などを育むために必要であることを再確認して指導を進めていきます。

「4. 他人を思いやり、親切にしている」については生徒・保護者の回答はともに肯定的な意見が多く、教職員も概ね似たような傾向でした。このことは生徒達に道徳性が育まれていることを表していると考えます。本校でも道徳教育を推進しているところではありますが、これからも学校生活を通して、豊かな心を育むとともに、コミュニケーション能力を培っていきたいと考えます。

「5. 楽しく学校に通っている」については学年の差は若干あるものの約90%の生徒の良好という回答結果については評価できます。教職員も保護者も多くはそう思っています。「あまり楽しくない」「楽しくない」と答えていたりする生徒の声にも真摯に耳を傾け、否定的にとらえている生徒の数を少しでも減らしていくよう努力していかねばなりません。また学校の出席状況を見ても、不登校・不登校気味の生徒が少なからずいることは確かであり、適切な対応を心がけてきました。今後も適切な対応・心の通った支援を進めていく必要があります。

「6. 将来の夢や希望について考えますか」については自分の夢や希望を家庭や学校で話せる機会が増えてきていると考えられます。学校でも1年生ではファイナンスパーク学習、2年生ではチャレンジ体験と高校訪問、3年生では進路説明会などキャリア教育に取り組んでいます。一方、3年生が回答した「全国学力・学習状況調査」の生徒質問紙をみると、大原野学区の子どもたちには、肯定的な回答が全国平均よりも5.7ポイント高く、自分の夢や希望をしっかりと表現できる生徒が多くなっています。今後も自己有用感・自尊感情の高い生徒の育成に力を注いでいきます。

### (3) 学校・地域について

#### 【結果】

「1. 先生に気軽に質問・相談しやすいと思いますか」の項目では、全学年80%を越える生徒が「話しやすい」「まあまあ話しやすい」と肯定的に答えています。

「2. 学校行事に積極的に参加している」の項目では、肯定的な回答は1年生については他学年に比較して少なくなっています。2, 3年生は90%近くの生徒が肯定的な回答をしています。

「3. 地域行事に積極的に参加している」の項目では肯定的な回答はそれほど多くはなく、生徒全体で約61%となっています。

「4. 学校・学級だより、HPで学校の様子が伝わってくる」の項目では、保護者の約90%が肯定的な回答をしています。

#### 【考察】

「1. 先生に気軽に質問・相談しやすいと思いますか」については、評価結果から生徒と教職員の関係が概ね良好と考えられます。日常の学校生活の中で教職員に積極的に質問・相談してくる生徒は比較的自己肯定感が高く自己有用感を持っている生徒であると考えられます。しかし、全ての学年に16～20%の生徒が否定的に答えている生徒が存在していることは意識しておく必要があります。

また、学習に対しての不安や不調を抱えている生徒がこの項目と重複している可能性が高いと考えるならば「勉強がわからない」と悩みながら「質問・相談が出来ない」と感じている生徒がいることも考えられます。今一度教職員が生徒に寄り添う姿勢でいることを心がけていきたいです。

「3. 地域行事に積極的に参加している」という生徒の数は、昨年と比較して16ポイント高くなっています。大原野学区は地域の行事も豊富で、生徒が積極的に参加する場面が多く見受けられるようです。地域でも活躍する大原野の子どもをともに育てていきたいです。

「4. 学校・学級だより、HPで学校の様子が伝わってくる」の項目では、保護者の約90%が肯定的にとらえています。学級だよりやHPでの情報の発信は、生徒への情報発信のみならず、保護者・地域に学校の取り組みや教育活動への理解と信頼を深めるために必要不可欠なもので、有効な方法でもあります。保護者・地域が学校に関心を持つてもらうことは大切なことであり、その期待にも答えていかなければなりません。